

平成29年度アドバイザー派遣事業実施レポート

『教えて考えさせる授業』づくり研究会

1 期 日 平成29年6月30日（金） 平成29年11月21日（火）

2 場 所 伯耆町立岸本小学校

3 研修内容

(1) 研修テーマ

確かな学力の定着と人間関係力の育成～『教えて考えさせる授業』を通して～
本研究会では、各教科において『教えて考えさせる授業』のスタイルを活用し工夫することにより、児童は見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができ、確かな学力の定着が図れると考える。また、一人一人の良さを認め合い、お互いが尊重され、何でも言い合える人間関係を作ることができれば、安心して自分の思いを語り、意欲的に学習に取り組む児童が育つと考え、本テーマを設定した。

(2) 指導助言者

東京大学大学院教育学研究科教育心理学コース
教授 市川 伸一 先生

(3) 『教えて考えさせる授業』の授業公開

※別紙指導案参照 6月【5年（体育）6年（算数）】
11月【1年（算数）4年（体育）】

(4) 授業研究会

6月

○市川先生による指導助言

- ・校内研究としての段階的な取り組みの見直しをしてほしい。
- ・個々の研究ではなく、部会での研究、全体研究の充実に期待する。
- ・協同的な学びを意識的に位置づけ、低学年から積み上げていくこと。
- ・4段階（説明・理解確認・理解深化・自己評価）を意識して、日常的に実践してほしい。
- ・指導案形式、算数の板書など校内研究として統一してほしい。
- ・転入した先生でも取り組みやすいように、算数・体育の学習の基本の形を示すことから始めてほしい。
- ・実技教科での理解深化についての共通理解を図る。
- ・困難度査定については、指導案略案にも入れること。
- ・指導案詳細案は、4ページ以内にしてはどうか。

11月

【体育部会】

- ・教員と一緒に動く姿勢がよい。
- ・音楽BGMを使っているところが良い。
- ・体ほぐしが主運動につながっている。

- ・前時の映像や写真を使うことにより、本時の押さえをしっかりとる。
- ・1度止まってから指示を出す、音楽が変わったら次の活動などの工夫が必要。
- ・できている子どもの動きをピックアップし、動きのイメージを広げる。

【算数部会】

- ・テンポよくわかりやすい上に挙手発表も多く、子どもが生き生きと笑顔だった。子どもたちの「やりきった!」「できた!」「学びきった!」という思いが多くみられた。
- ・ICT活用が有効に行われていた。
- ・減減法のよさに気づく問題を提示してみてもどうか。
- ・板書したものを残さないと、思考を整理する言葉が見つからない。
- ・全員への丸つけは時間が長くなるので学習支援の先生に丸つけをしてもらう。
- ・問題量が多く、理解深化の時間が短い

○市川先生による指導助言

- ・予習は5～10分程度。疑問をもって授業に参加すること。
- ・前半では丁寧に教え、基本的な知識を共有すること。
- ・理解深化問題では、アイデアを出し合って相談して問題を解決すること。
- ・理解が深まった状態とは、「自分の言葉で説明できること」「質問に答えられること」「類似問題に応用できること」の3つができること。
- ・ペア学習は発表機会が増える。4人だとアイデアが行き詰まらない。5人以上になると声が届かなくなる。

4 研修の成果

☆「指導者のつける力」として「理解深化問題を見つけること」

- ・全体の指導の中で、『教えて考えさせる授業』の指導過程について、このままの取り組みでよいと指導された。
- ・「理解深化問題」について、ねらいをより理解するための問題を選ぶように指導を受けた。また、複雑化しすぎず、「なるほど。」「わかった。」と授業後の感想で言える問題を選ぶことが大切である。

☆児童の表現力をつけること

- ・話形に頼り、自分の言葉で説明できない状態は「理解した」とは言えない。
- ・友達に自分の考えた過程を説明することができるようになれば、「教えあい」の場面が答えを教えるだけのつまらないものにはならない。
- ・表現力の基礎は「国語」でつける。→身につけた表現力の基礎が他教科で実践として生かせる。(例えば、『教えて考えさせる授業』の理解確認や理解深化の場面で)
- ・望ましい児童の姿は、「自分の言葉で説明(台本なしでスピーチ)ができる」「友達の改善点を、言い方を考えて相手に伝えられる」「相手の話を受けて考えたことをその場で言える」ということである。